

## 令和5年度 第3回江南市地域福祉計画推進委員会 会議録

日時：令和6年2月14日（水）午後3時00分～4時10分

場所：江南市防災センター 仮眠待機室・救護室

出席者：会長 柏原 正尚 副会長 石川 勇男  
委員 河合 荘太郎 委員 今井 聖治  
委員 野呂 美鈴 委員 暮石 浩章  
委員 永田 裕美子 委員 高橋 正博  
委員 佐藤 豊子 委員 三ツ口 文寛  
委員 伊代田 誠二  
欠席者：委員 中村 祥 委員 船戸 正憲

事務局：江南市健康福祉部長、福祉課  
江南市社会福祉協議会事務局

傍聴者数：1名

### 1. 会議次第

1. あいさつ
2. 「第2次江南市地域福祉計画・地域福祉活動計画（案）」のパブリックコメント実施結果および計画（案）について
3. その他  
(1) 来年度以降の取組みについて

### 2. 会議経過

1. あいさつ  
(江南市地域福祉計画推進委員会会長)  
あいさつ
2. 「第2次江南市地域福祉計画・地域福祉活動計画（案）」のパブリックコメント実施結果および計画（案）について  
(会長)  
本日は、前回11月に開催された、本推進委員会でご協議いただいた地域福祉計画・地域福祉活動計画について、パブリックコメントが終了したので、その結果を踏まえて、最終的な計画（案）を完成させる回となる。

2年間にわたり作業を進めていただいたが、今回で最後となるので、よろしく  
願います。

では、議題(1)「第2次江南市地域福祉計画・地域福祉活動計画(案)」のパブリックコメント実施結果および計画(案)について、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

「第2次江南市地域福祉計画・地域福祉活動計画(案)」のパブリックコメント実施結果および計画(案)について、資料1・2に基づき説明

(会長)

ただいまの説明に対して意見、質問等はあるか。

(委員)

パブリックコメントに寄せられた意見がなかったということだが、他に行ったパブリックコメントで、ゼロというのはどれくらいあるのか。

(事務局)

今、江南市は、ほぼ同日程でいくつかの福祉系の計画を策定している。具体的には、「地域福祉計画」という健康福祉部全体の計画があって、それ以外に、「障害福祉計画・障害児福祉計画」、「自殺対策計画」、「介護保険事業計画・高齢者福祉計画」などがあり、パブリックコメントもほぼ同じタイミングで行った。広報でもかなり大きく扱ったが、意見が出されたのは、介護保険のみで、それ以外は全てゼロだった。今回はゼロが多かったというのが実態である。

(委員)

福祉関係以外にも同様にゼロが多いのか。

(事務局)

私自身の経験ではゼロのものもあった。市民の方の興味があるところについては、意見が付く場合もある。意見が付かない例も結構ある。

(副会長)

介護保険は身近な問題であることと、介護保険料に跳ね返ってくるということで、1件あった。

(委員)

パブリックコメントのページにアクセスした件数を捉えることはできるのではないか。

(事務局)

担当課ではないので、ホームページのアクセス数は、現在、把握していない。それがキャッチできるかどうかも含めて、確認してみないと分からない。個別のホームページのアクセスカウンターを全体通じて入れているわけではないので、市民の方が、このページに何回アクセスされたのか、分かるような状況にはなっていない。

(会長)

一般的には、パブリックコメントは途中の段階なので、よく分からない方が多いと思う。ホームページでカウントできるように検討できれば、消極的かもしれないが、アクセス数を今後5年間で増やそうとか、見る方を増やそうとすることも1つの方法であると思う。

実際に、「地域福祉」という言葉自体も難しい。個別具体的な話になってくると、身近な自分の関心事については何か質問してみたいと思うだろうが、「地域」というのは、漠然として、全部入っていそうで、何を言っているかわからないようなところが出てくると思う。地域に関わりがあったり、何か自分で活動されていれば、何か言おうか、今後どうしていこうか、と考えられると思うので、この計画に基づいてどんな活動をされているのかということは、いろいろところで、根拠のある資料は残したり、それを公表したりして、何となくほぐしていくような作業が第2次計画ではないかと思う。

政策評価の部分も書いてあったし、それ以外も、できるだけ市民にアクセスして関心を持ってもらえるようにして、皆さんと一緒に考えられるといいのではないか。パブリックコメントだと、なかなか意見が出にくい。結構、意見を言われる方がいらっしゃれば、意見がたくさん出てくるような市もあることは知っているが、そうではないとなかなか出てこない。今、江南市があまり出てこない状況なのだろうということから考えていただいたほうが正しいだろうと思う。

実際に活動されている方のアンケートがあるので、将来を見据えて、次の仕掛けのために皆さんで建設的な意見をいただけると、さらに実のあるものになってくると思う。

他に意見はないか。

(副会長)

社協会長のあいさつが入る予定だが、重層や包括的なことを入れたいので、最終調整している。前回の概要版は、表紙に計画期間が入っていた。今回は中に入っているけれども、表紙に入れたほうが分かりやすい。まだ間に合うなら、表紙に入れてほしい。

再犯防止や成年後見など、よくまとめていただいが、重層的支援体制整備事業のことは総論と理念が並んでいるだけなので、具体的な施策については、今後加わるのだろうと理解した。これがスタートラインなので、具体的な施策がたくさん出てくるようにしてほしい。

#### (事務局)

私自身は、職務で携わっているので、地域福祉がどういったものであるのか十分承知しているが、江南市民にはまだ浸透していないだろうと思っている。それもあって、江南市も組織再編で、「地域ふくし課」としたのは、名前そのものを浸透させようという思いもある。

「地域共生社会」とか、いろいろなワードが出てくるが、どういったものかイメージしにくいので、市のシンポジウム、地域福祉懇談会などを通じながら、PRしていくことに取り組んでいきたい。ホームページのアクセス数も1つの数字として捉えながらやっていけるように確認するが、頭をひねりながら取り組んでいきたいと思っている。

先ほど、副会長から指摘があった概要版については、まだ最終的な確認をしているものではないので、表紙の部分に年度を入れることについて、事務局で検討する。

重層的支援体制整備事業は、今の地域福祉計画・地域福祉活動計画で、早ければ令和7年度に完成させるという方向性を示しているので、来年度の取り組みの中において、皆さまの意見を賜りながら、具体的な形を一緒に考えていきたいと思っている。

#### (委員)

資料3、64ページだが、前回、いろいろと言わせてもらった部分、すっきりとまとめていただいた。施策の方向性4が権利擁護・成年後見制度、施策5が再犯防止の推進とまとめられて、よかったと思う。指標の中に、成年後見については目標値があるが、権利擁護に関係する指標があったほうが、バランスがいいと感じた。

これは細かいことだが、資料2の2ページ、No.13、「成年後見制度の内容も言葉も知っている人で」の後に普通なら読点が入るのではないか。

(事務局)

どういった指標であれば、その分野、施策を反映できるのか、非常に悩んだ。こと細かに作ってしまうと、全体が見えなくなることもあるので、第2次基本計画の方向性としては、おおむね代表的な施策で書かせていただいた。

「施策の方向性4 権利擁護・成年後見制度」で、成年後見を前面に指標として出して、権利擁護が表現できているのかというご指摘だと思うが、行政で捉えられる数値としては、権利擁護・成年後見というのは一体の話になってくるので、まずは成年後見で全体像を捉える形で指標を設定した。また、計画は6年間あるので、その中で新たな指標、こういったものがないのではないかとすることは、おそらく出てくると思うので、第3次計画に取り組む中において検討したいと考えている。

(会長)

76 ページに、アンケートの指標を増やす目標が載っているので、そこに「成年後見制度の認知度」のアンケートの指標も加えれば、日常生活自立支援事業についても、認知度を高めることを加えれば、成年後見だけではなく、権利擁護に近いものが入ることになると思う。本来、抑制したほうがいいし、周知すると増えるということもあって、どちらがいいかというのはあると思うが、認知度に関しては、高まったほうがいいということがあれば、それを入れておくという手はある。

1 ページに、社会福祉協議会についての脚注がある。「社会福祉活動を推進することを目的とした営利を目的としない……」というのが分かりにくいというのと、本来はこれなのだが、現在、社協というのは、「地域福祉の推進を図ることを目的とする」と法の109条にも書いてあるので、「地域福祉」という言葉を入れて明確にしたほうがいいのではないかと思う。検討していただけるとありがたい。社会福祉事業法をつくったときには、この内容なのだが、厳密に言うと、1951年には市町村社協は法令化されていないので、「1951年」が必要なのかも気になっている。

もう1つ、2ページに「地域共生社会」の脚注があるが、一般の方は、重層的支援体制整備事業というのは分からないと思うので、最後の用語解説のところに、もう少し分かりやすい言葉で重層のことを書いてもいいのではないかと思った。くどくても、何カ所かにあると、重層的支援体制整備事業という言葉に関する認知度が上がるのではないかと思う。組織再編までして頑張ろうとされているのだったら、そこをアピールしてもいいような気がする。

先ほど副会長が言われた、計画の位置付けのところ、5ページに江南市総合計画との整合性の図があるが、概要版と同じような図のほうがいい。本編のほうが丁寧に書いてあるので、どちらがいいか検討いただきたい。

政策の評価についてだが、76ページ、基本目標3の「生活上の悩みや不安を相談する人がいない人の割合」の目標値が4.3%などと出ているが、これは根拠がある数値なのか。細かい数字を目標にすると分かりにくい。根拠があるなら別だが、「2割」などのきりのいい数字でもいいのではないか。

(事務局)

レイアウトの話や注釈については、軽微な修正の範囲でできると思うので、どのような表記がいいか事務局で検討する。

76ページの指標については、確かに基本目標1と2は、きりのいい数字が目標値になっているが、基本目標3と4は、小数点以下が入った細かい数字になっている。「生活上の悩みや不安を相談する人がいない人の割合」や「福祉サービスの情報を入手出来ていない人の割合」は、マイナス項目の話なので、市民アンケートで取ってはいるが、これをゼロにしたいと考えている。ただ、重層的支援体制整備事業がまだこれからという中において、この計画期間の6年間の中でゼロに持って行くことは、体制が整備されない中、難しいであろうと思われるので、最終的には、第3期計画が終わった年度、12年先にゼロにする。その前の中間的な数値なので、現状の数値を半減させるというのが、今回の第2次計画の目標としての根拠、考え方となっている。

(会長)

1次計画にはこのアンケート項目はあったのか。

(事務局)

1次計画は、これについて数値を捉えてうんぬんという形を取っていない。

(会長)

この数字が5%でも4%でも、誰も文句を言わないと思う。小数点以下まである目標というのは、あまり聞かない。今回の数値もアンケートも、あくまでも目安というか、抽出での市民アンケートだし、年齢層や地域性もそのときによって変わることは分かっているので、大まかな目安でいいのではないか。

もう1つ、基本目標についてはしっかり書いてあるが、見やすさの点でいうと、概要版はかなり見やすい。例えば、本編の42ページと概要版の4～6ページのところは違うもののように感じるので、できれば、概要版と本編は、似たよ

うなものにすると分かりやすいのではないかと思うが、そうするとページ数が増えてしまうのが気になっている。

(事務局)

概要版については、市民の方が手に取って分かりやすいということを最優先にしたので、情報量を削減した形で、重要な部分だけ抜粋している。計画の関係性や計画年度については、全てを書くのではなく、一部だけを抜粋している。それに対して、本編は細かくしっかり書いているので、その分ページ数も多い。レイアウトの見やすさについては、概要版はイラストレーターに頑張ってもらったので、分かりやすくなっている。本編にそれをそのまま反映できるかどうか、コンサルと協議させていただきたい。

(会長)

伝え方が難しく、76 ページは、項目ごとに表が分かれている。42 ページは1つの表になっている。概要版も項目ごとに分かれているので、少しでも統一したほうがいい。施策の展開のところも項目ごとに表になっているので、全部1つの表にすると、42 ページと76 ページがもう少し分かりやすくなると思う。

(委員)

地域福祉懇談会のときに、児童館が令和8年にセンターの3階に移転するという話を聞いて驚いた。私のグループの方は全員反対だった。皆、反対しているのに、既に決まっていることと言われ、説明が分からなかった。今年の1月30日に自治会で一般の方に呼び掛けて、集会所で、財政課とこども政策課の方から説明を受けた。この説明が、私たちが思っているような説明ではなく、財政のことだった。こんなにみんなが反対しているのに、なぜそうなったのかが分からないまま、既に決まっていることだった。議会を通ったと言われるが、地域福祉懇談会は、みんなの声を情報として吸い上げてくれるものではないのか。

30日の会合では、かなり活発な意見が出て、署名運動をしようということになった。児童館は、他の地域と違って、団地の場合は子ども110番もやっていて、子どもが駆け込む場所でもある。それがなくなるし、でもどうやって、福祉センターまで行くのか。歩いて行くのか、自転車で行くのか、親子で行くのかという活発な意見が出たが、もう決まっているということだった。

(会長)

36 ページでは、「児童館を民間などに託してはどうか」くらいの話で書いてあるので、今のトーンとはだいぶ違うが、ここでまとめたときに、トーンがまるや

かになっているのではないかと感じた。今後は、反対の意見が出たとしても、載せてもいいのではないかと。いろいろな議論があったと、そういう地域だということもあっていいかもしれない。

ご意見があつて、いろいろな政策的な判断があつて、なくなったり、新しいものができたりということは、どうしても起こるので、その経緯が分かったほうが、懇談会の状況がリアルな感じに見える。これだけでは、何となく意見がまとまって、その後、計画ができたということになっているが、全員の意見を反映した計画ではないということが見えにくいと、パブリックコメントもしたくなくなるのではないかと思う。地域福祉計画だけの問題ではないと思うので、ここで議論していいかどうか分からないが、ただ、反対意見を載せてもいいと思う。

#### (事務局)

地域福祉懇談会では、確かにそういう意見はあつた。他の困難課題について、市にこうしてほしいとか、こうしてもらったほうがありがたいという意見は各所であつたと思う。もちろん、今のお話では、児童館を独自でという話だと思うが、地域福祉懇談会が目指していた方向性の話としては、そうしたハード面を地域福祉懇談会でまとめ上げて、それを建設しようということではなくて、外部要因はなかなか変わらない理由については、財政課が話しているところがあると思う。その上で、地域として、代替的な地域の力を使いながら、どういうことができるのかという、ここをしっかりお話ししたが、自分たちがどういう行動ができるか、皆さんで議論していただきたいということにしている。

今回、地域福祉懇談会を数年ぶりに開催したが、まだまだ回数を重ねていない。100人以上来ていただいて、いろいろな意見の方がおられた。行政に要望してもらうのは当然だと思うが、それを踏まえてもなお、地域の福祉として、見守りでこういうことができるのではないかという前向きな意見もいただいた。そういったところをより具体的に実現できるような形を協議していただくと、地域福祉懇談会はさらに高まっていくと思う。来年度以降も継続していくが、改めて、今の方向性、そもそも何を目的としてやっていくものなのか、というところもしっかり皆さんにお伝えしながら取り組んでいきたい。皆さんにまだ浸透していないと思うので、来年度以降、その辺りをしっかりと踏まえてお伝えしていきたい。

#### (会長)

方向性としては、行政の計画が中心で、住民の方がどうしていくかということも一緒に合わせた計画で、江南市は1次計画を踏まえ、地域の力をどうやって高めていくか、ずっと検討されてきたと思う。正直言って、江南市の地域福祉計画は、他市に比べると遅めに始まっているので、まだこれからというところがある

のだろうが、2次計画の策定に当たって、本腰を入れないといけないと思っている。反対意見が出てもいいのではというのは、反対意見があるからこそ、それをどのように改善していくかということになってくるからである。

行政は有限なので、全部のニーズには対応できないが、民間や住民でどういうことができるのかとか、ここだけは行政に絶対やってほしいとか、協力してもらう人を増やそうということをごここにに入れていけるといいのではないかと思う。

ハード面は、老朽化の問題や財政の問題などがたくさん出てくると思うが、地域福祉計画にはハード面は入れにくい。その辺が、皆さんの知恵ももう少し入ったような計画になっていけばいいと思う。

地域福祉懇談会を継続して開催していくべきではないかという意見が出たことは書いていただいてもいいかもしれないし、残された課題は、行政と一緒に話合っていく機会を設けるとか、こうしていったほうがいい、みたいな話にして載せていけるといい。

36ページ、「児童館を民間などに託してはどうか」という表現は、もう少しトーンを変えたほうがいいような気がする。先ほど、強く意見が出されたということで、修正したほうがいい。

(事務局)

懇談会の意見は、B紙を残していただき、それを回収して、どのような協議があったのかを見て抜粋して掲載している。児童館を廃止してほしくないとか、民間に託してはどうかという意見は確かに出ていたので、それを選択して載せているが、当時のものを再度確認してから検討する。

(会長)

今日でなくてもいいが、地域福祉計画に関わる項目については、今後も注視していただき、どんな活動が連動するかとか、皆さんがやっていることと、どうつながるのか等、ぜひ考えながらいろいろな方と議論していただくといいのではないかと思う。いったん区切ってよろしいか。

続いて、次第3「その他(1)来年度以降の取組みについて」説明をお願いします。

### 3. その他

#### (1) 来年度以降の取組みについて

(事務局)

「来年度以降の取組みについて」資料3に基づき説明

(会長)

重層的支援体制整備事業は、73 ページのように、今後の方向性としては、しっかりあるけれども、中身についてはこれから進めていきたいということだった。国からのやり方のままやっていると不都合があると思うので、地域の状況に応じて、どのようにやっていったらいいのか、市だけで考えるのではなく、皆さんと一緒に考えたいというお話だった。何か意見はないか。

(副会長)

4月の機構再編で、地域ふくし課ができるということだったが、今回の地域ふくし課というのは、福祉部門の連携をとる、福祉部門の企画部門ということなので、いろいろな資格を持った優秀な職員ばかりだと思う。計画が絵に描いた餅にならないように、まさに、重層的なことは、市長の施政方針の中で、力を入れてやっていくことの第一歩だと思うので、いいことが仕掛けていけるようになってほしい。利用者に寄り添ったものになっていくようお願いしたい。

(会長)

組織が変わるときは、それまでが良かった場合、批判を受けやすい。新たなものに対する期待もあって、頑張っても、それ以上を求められるのではないかと思うので、逆に、批判も含めて注目してもらったほうがいいと思う。すぐに満たされなくても、地域ふくし課に意見を出そうというような雰囲気をつくっていったほうが結果的にはいいのではないか。あそこに行くとか聞いてくれるとか、記録が残るといふことになるので、後々、どのようにしていくかということが残っていくと思うので、すぐには決まらなくても、5年、6年の計画では、次にどうしようかということを考えていく部署ができたというふうに、前向きに捉えておいたほうがいいと思う。

全体のことでも構わないが、何か意見はないか。

これで計画が出来上がるので、よろしいか。それでは、その他について、他に  
あるか。

(事務局)

社会福祉協議会からだが、本日、お手元に「家族介護教室」の案内と「ボランティア・マルシェ」のチラシをお配りしているが、また、開催していくのでよろしく願います。

(事務局)

推進委員会は委員の任期を3月31日までとしている。一部、来年度以降も引き続きという方もいらっしゃるかもしれないが、区切りとして、年度末で最後となっている。おおむね3年間の長い間、委員として委嘱させていただき、特に、去年、今年は、計画という、かなりボリュームの多い話があったので、大変ご尽力いただき感謝申し上げます。

先ほども申し上げたが、この計画については、3月末に確定し、製本が出来次第、皆さまに郵送させていただく。

(会長)

それでは、全ての議題が終了したので、進行を事務局へお返りする。

(事務局)

長時間にわたり、また、長い期間にわたりご尽力いただき感謝申し上げます。おかげで、第2次江南市地域福祉計画・地域福祉活動計画が完成に近づいてきた。作って終わりではないので、事務局からも説明したとおり、来年度以降、市と社会福祉協議会で地域福祉の事業を進めていくので、こちらのほうにもご理解とご協力を賜りながら、また、ご意見等あれば、お寄せいただくようお願いする。

議題終了